明眼の森

この老生林は主に、徳之島の固有種であり、隆起石灰岩の台地を浅く覆う表土に生育するアマミアラカシというアラカシ（*Quercus glauca*）の一種からなります。アマミアラカシは徳之島の固有種で、隆起石灰岩の台地の浅い表土に生育します。アラカシは昔から優れた木材として植栽・伐採されてきました。しかし、明眼の森は、長年にわたる霊場としての歴史のおかげで、希少な自然の状態を保ってきました。この地域は、洞窟に遺体を安置して自然に分解させる古来の埋葬慣習「風葬墓（wind tombs）」の場所として知られていました。また、この森は、琉球王国（1429-1879）の強力な行政官として活躍し、宗教的行事においても重要な役割を果たした「ノロ」と呼ばれる強い影響力を持った女性たちの存在ともつながりがあります。その環境的重要性と文化的価値が認められ、この公園は 2012 年に国の天然記念物に指定されました。

自然遊歩道

この森を通る遊歩道は、概ね勾配の緩やかな道が約 700m にわたって続いていますが、一部階段になっている箇所もあります。遊歩道起点から 200m ほど離れたところには、骨壷の残骸が残る浅い洞窟があります。昔葬儀の場として使われていたこの洞窟は、江戸時代(1603−1867)のものと考えられています。自然道沿いには、自然に形成された特徴的な岩や木の見られる祈りの場所が数ヶ所あります。

散策時のアドバイス

島内の他の自然道を散策する時と同様、この道でも琉球諸島固有種の猛毒を持つ蛇「ハブ」にご注意ください。ハイキングの際は、道の草が生い茂っている場所を杖で払い、音を立ててハブに自分がそこにいることを知らせるようにしましょう。この森の自然の美しさと宗教的な遺産としての価値を尊重し、環境保全にご協力ください。